

宗岡中だより



4月号 令和2年4月8日(水)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「春なのに コロナウイルス 疲れかな」

校長 佐藤哲浩

春陽麗和の季節を迎えたとはいえ、新型コロナウイルスによる感染防止のため緊急事態宣言が発令されました。皆様におかれましては、不安な日々を送っていることと思いますが、宗岡中学校の教育活動が始まります。お子様のご入学、ご進級、誠にありがとうございます。子どもたちは進学、進級を機に、新たな志をもって張り切っていることと思います。この志を持ち続け、充実した中学校生活を送って欲しいと思います。本年度は1学年116名、2学年140名、3学年126名、ひまわり学級7名、計389名、教職員44名でスタートします。目指す学校像「師弟同行」の具現化に向けて、今年度も教職員一同「チーム宗岡」で教育活動を推進してまいります。



私は学校経営の基本理念を「不易と流行」と考えています。いかに社会が変化しようが、時代を超えて変わらない不易なるものがあります。豊かな人間や道徳心など、いつの時代の教育でも大切にされなければなりません。一方、学校は社会の潮流をしっかりと掴んでおく必要があります。なぜなら教育とは次世代の社会を担う人材を育成するという崇高なものだからです。今年度も誠心誠意、学校経営に取り組んでいく所存です。

話は変わって、昨日朝日新聞を読んでいると一昨年度から始まった部活動改革についての鈴木大地スポーツ庁長官のインタビューが目にとまりました。この部活動改革は、生徒のやり過ぎや教員の多忙化を解消すべく始まったものですが、もう一つの理由があります。それは日本のスポーツ界はジュニア層のレベルは、世界でも高いのですが、大人になるにしたがって外国勢に追い越される。その原因が若い時のやり過ぎによるけがや、燃え尽き症候群である可能性があるからです。

鈴木長官が評価しているものとして、少し前までの「やらされている練習」から、近年練習内容や試合メンバーも部員たちで決めるボトムアップ方式、「自主・自発」が重視されつつあることを挙げています。新型コロナウイルスの影響で、3月から部活動中止、大会の延期等が続き、スポーツが出来ずストレスが溜まっている生徒が多いことと思います。先行きが見えないですが、いずれ再開する時が来ます。部活動やスポーツができる喜びを是非大切にしてもらいたいと思います。そして、「自主・自発」の練習を見直すチャンスと捉えて欲しいと思います。

目指す学校像 「師弟同行」

- 1 組織力を高め、生きる力をはぐくむ学校
- 2 教員の資質向上を図り、確かな学力をはぐくむ学校
- 3 保護者、地域住民との連携を深め、その地を支える学校